

山形県気候変動適応センター

山形県気候変動適応センターでは、気候変動の影響や適応に関する情報収集、整理、分析を行い、県民のみなさまが気候変動の適応を進めるためのサポートを実施しています。

地域における気候変動（温暖化）

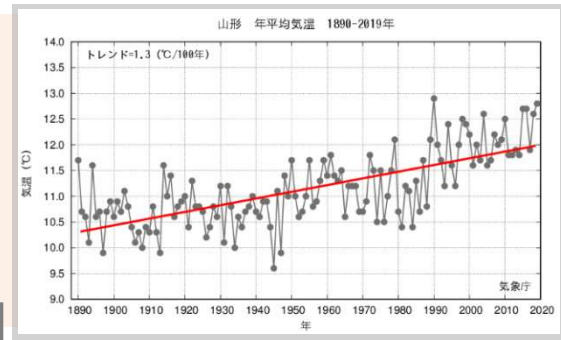
現在

山形県では年平均気温が長期的に100年あたり約1.3°Cの割合で上昇しており、気候変動（温暖化）が進んでいることがわかります。

将来

現在のように温室効果ガスを排出し続けた場合は、21世紀末には山形県の年平均気温は現在よりも4.7°C高くなると予測されています。

山形県の年平均気温の変化※1



気候変動による影響と「適応」の必要性

気候変動により以下のような影響が懸念され、抵抗力を高める取組である「適応」が必要とされています。「適応」については裏面も御覧ください。

現在

近年、世界中で極端な気象現象が観測されており、山形県もその例外ではありません。令和2年7月には観測史上最大となる激しい降雨に見舞われ、最上川が氾濫するなど、県内全域で甚大な被害が発生しました。この他にも、農作物の品質低下、動植物の分布域の変化、熱中症リスクの増加など、様々な分野で気候変動による影響があらわれています。

将来

現在のような温室効果ガスの排出が続けば、気温の上昇により既に顕在化している影響がさらに悪化することに加え、感染症を媒介する蚊の生息域の広がりによる感染症のリスクが高まることや、熱中症によって亡くなる人が増えることが懸念されています。



山形県が取り組む適応策

山形県では、現在や将来の気候変動による影響に対し、分野ごとの適応策を進めています。

	農林水産業	農産物の高温耐性品種、家畜の暑熱ストレス軽減技術、気候変化に対応した水産資源の養殖生産・資源造成技術など、温暖化に対応した技術の開発
	水環境・水資源	湖沼・ダム湖、河川等の水温上昇や水質変化等の調査研究 渇水に対応するための関係機関との情報共有
	自然生態系	森林被害の調査や野生鳥獣の適正な管理などによる農林水産被害の軽減 外来生物等の状況の把握と捕獲・採取
	自然災害・沿岸域	洪水ハザードマップ作成と「流域治水」の推進 砂防施設等の整備と効率的・効果的な維持管理
	健康	熱中症に対する注意喚起や予防・対処法についての普及啓発 デング熱等感染症のまん延に備えた情報提供
	産業・経済活動	企業の事業内容に即した気候変動適応の推進、新たな適応ビジネスの創出につながる情報提供 降雪時期の遅れや降雪量に左右されない通年型の観光誘客対策
	県民生活	病院等の公共施設や重要インフラの強靭化 災害による被害発生時の迅速な対応に備えた連携の強化

適応センターについて

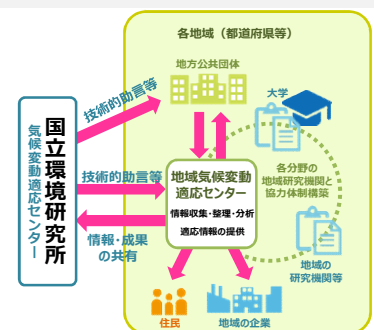
●設置根拠・体制

2018年6月に公布された気候変動適応法（平成30年法律第50号）において、「都道府県及び市町村は、（中略）気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行う拠点」を確保するよう努めるものと定められました。これを受け、山形県では令和3年4月1日に山形県気候変動適応センターを設置しました。

●主な活動

本センターでは国や地方公共団体、研究機関等と連携し、気候変動の影響や適応に関する情報の収集、整理、分析等を実施します。また、その成果を広く提供することで、県内の市町村や事業者、県民のみなさまそれぞれの、気候変動適応に関する取り組みを促進します。

地域気候変動適応センターの位置づけ



山形県気候変動適応センター

〒995-0024 山形県村山市植岡笛田三丁目2-1

（山形県環境科学センター内）

TEL:0237-52-3124 FAX:0237-52-3135

Email: ykankyose@pref.yamagata.jp

温暖化対策には2つの取組が必要です。

私たちは日々の暮らしの中で温室効果ガスを大量に排出しており、そのことによって地球の平均気温は上昇を続けています。こうした地球温暖化やそれに伴う気候変動が、私たちの生活に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。そこで「緩和」と「適応」、2つの温暖化対策への取組が必要となります。

■緩和

人間社会や自然の生態系が危機に陥らないためには、実効性の高い温室効果ガス排出削減の取組を行っていく必要があります。温室効果ガスの排出抑制に向けた努力が緩和です。



■適応

緩和を実施しても温暖化の影響が避けられない場合、その影響に対して自然や人間社会のあり方を調整していくことが、適応です。

温暖化による影響と適応策

日本において適応に取り組むべく、平成27年に「気候変動の影響への適応計画」が策定されました。そこでは、影響が既に生じているまたはその恐れがある主要な7つの分野（「農業・森林・林業・水産業」「水環境・水資源」「自然生態系」「自然災害・沿岸域」「健康」「産業・経済活動」「国民生活・都市生活」）が明示されています。



農業・森林・林業、水産業



水環境・水資源



自然生態系



自然災害・沿岸域



健康



産業・経済活動



国民生活・都市生活

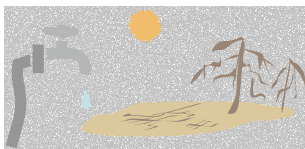
今日からはじめよう！個人でできる適応の取組

これらは「適応」の一例です。



① 水を大切に使おう！

温暖化によって、雨が降る日がだんだん少なくなる可能性があります。ふだんから水を大切に使いましょう。エネルギーの節約にもなります。



② 熱中症を予防しよう！

地球温暖化が進み、気温が上がることで、熱中症になる可能性が増え、これまで以上に熱中症に気をつける必要があると考えられています。暑い日は、水をこまめに飲んだり、外に出るときは、帽子をかぶったりして、熱中症を予防しましょう。

熱中症の主な症状

1. めまいやほてり
2. 筋肉痛・筋肉のけいれん
3. 体のだるさや吐き気
4. おかしな汗のかき方
5. 高い体温、皮ふの異常



③ 自然災害にそなえよう！

雨が降る日が少なくなる一方で、一度に降る雨の量が極端に多くなり、大型の台風が来る可能性があります。災害にそなえるために、避難場所や避難経路を調べておくことも大事です。



④ 虫刺されに気をつけよう！

気温が上がることによって、寒い地域に住めなかった虫が、北上して住むようになります。例えば、デング熱という病気を広める蚊の住める地域が北に広がっていますので注意しましょう。

デング熱について

ヒトスジシマカという蚊が運ぶウィルスが原因となる病気です。2014年、代々木公園などで感染したと考えられる患者が発生しニュースになりました。温暖化が進むことによって、将来的に流行することが心配されています。

